

令和6年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第7号（10月）

令和6年9月25日
山形県病害虫防除所

[概要]

園芸作物：りんご、日本なしの黒星病は、翌年の伝染源密度を低減するため、収穫終了後に薬剤散布を行ってください。また、落葉した発病葉は集めて適切に処分する等、耕種的対策を組み合わせる総合的に防除を実施してください。

もものせん孔細菌病は、翌年の伝染源密度を低減するため、落葉期までに無機銅剤を1～2回散布してください。

果樹共通害虫のコスカシバの発生量はやや多い予想です。落葉後直ちに薬剤散布を行ってください。

野菜・花き共通害虫のハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ・オオタバコガの発生量は多い予想です。圃場をよく見回り早期発見に努め、被害初期の防除を徹底してください。

予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生量
りんご	黒星病	—
	炭そ病	—
もも	せん孔細菌病	—
	黒星病	—
日本なし	黒星病	—
	コスカシバ（もも・おうとう）	やや多い
果樹共通害虫	葉枯病	平年並
	ネギアザミウマ	平年並
秋冬ねぎ	ハスモンヨトウ	多い
	シロイチモジヨトウ	多い
	オオタバコガ	多い
野菜・花き共通害虫		

山形県病害虫防除所	本所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病害虫防除所トップページ	https://agrin.jp/theme/byogaichubojosho/index.html		
農作物有害動植物発生予察情報	https://agrin.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html		

1. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定められた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
2. 耐性菌・抵抗性害虫の出現を防止するため、薬剤の選択及び使用回数に留意する。
3. **品種ごとの収穫時期を考慮し、使用時期（収穫前使用日数等）を厳守する。**
4. **農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**
5. 農薬の空容器や空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号 (+)：発生量を多くする要因 (-)：発生量を少なくする要因

I 園芸作物

1. りんご

(1) 黒星病

翌年の伝染源密度の低減を図るため、以下の対策を徹底する。

- ア. 収穫が終了した品種から薬剤散布を行う。なお、収穫終了後に防除が実施できない園では、10月中旬頃に薬剤散布を行う。
- イ. 落葉した発病葉は翌年の一次伝染源となるため、収穫終了後から翌春の展葉期までに落葉を収集し適切に処分する等、耕種的対策を行う。
- ウ. 枝葉の混み合った園では日当たりや風通しが悪く、樹冠内部へ薬液がかかりにくくなる。せん定に当たっては、薬液の到達性を考慮し実施するとともに、過度のせん定とならないよう注意する。

(2) 炭そ病

9月24日現在、一部で発病果が確認された園が見られる。発病果は二次伝染源となるので、見つけ次第摘み取り適切に処分する。

2. もも

(1) せん孔細菌病

9月24日現在の発生量はやや少ないが、一部で発病程度の高い園が見られる。翌年の伝染源密度の低減を図るため、以下の対策を徹底する。

- ア. 落葉期までに無機銅剤を前回散布から2週間おきに1～2回散布する。なお、台風等により早期に落葉すると、落葉部位からの感染が多くなるため、台風の通過前や降雨前に薬剤散布を行う。
- イ. 薬剤散布にあたっては、枝先まで薬液が十分にかかるようていねいに行う。

3. 日本なし

(1) 黒星病

翌年の伝染源となるりん片への感染を防止するため、以下の対策を徹底する。

- ア. 収穫終了後、芽りん片が露出する頃（10月上旬頃）から1～2回薬剤散布を行う。なお、発生が多い園では必ず2回防除する。
- イ. 薬剤散布に当たっては、薬液が樹全体にかかるようていねいに行う。また、スปีードスプレーヤで散布する場合は、走行速度や散布経路に注意し、散布ムラを防ぐ。
- ウ. 落葉した発病葉は翌年の一次伝染源となるため、集めて適切に処分する等、園内の伝染源密度の低減に努める。

4. 果樹共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) コスカシバ	もも・おうとう	やや多い

1) 予報の根拠

9月24日現在の発生量はやや多い。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 枝幹部の食入痕からは、虫糞の混じったヤニが出ているので、この周辺をよく観察し、幼虫を見つけ次第捕殺する。また、細かな虫糞の出ている食入痕周辺は、木槌等で軽くたたいて樹皮下の幼虫を圧殺する。
- イ. 若齢幼虫は樹皮下の浅い部分に食入するため、落葉後直ちに枝幹部に薬液が十分にかかるように薬剤散布を行う。なお、落葉前にも使用できる薬剤を散布する場合は、葉に薬液がかからないよう注意する。
- ウ. 枝幹の樹皮が裂けている場合や樹勢が低下している樹は、特に被害を受けやすいので防除を徹底する。
- エ. 若木や幼木は、こぶ状に盛り上がった接木部が被害を受けやすいので、この部位にも薬液が十分にかかるようていねいに散布する。

5. 秋冬ねぎ

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 葉枯病	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 9月24日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く降水量は平年並か多いと予報されている。
(+)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 降雨が続くと中心葉に黄色斑紋病斑が発生することもあるので、雨の合間を見て防除を適切に行う。なお、薬剤散布にあたっては、薬液が株全体に十分付着するようていねいに行う。また、収穫時期を考慮し農薬使用基準を厳守する。
- イ. 収穫残さや被害株は、翌年の伝染源となるため、圃場外に搬出して適切に処分する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) ネギアザミウマ	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 9月24日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く降水量は平年並か多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく観察し、生息密度が高く中心葉への加害が目立つ場合は、防除を徹底する。
- イ. 薬剤散布にあたっては、薬液が株全体に十分付着するようていねいに行う。また、収穫時期を考慮し農薬使用基準を厳守する。
- ウ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なるグループの薬剤を輪用散布する。

6. 野菜・花き共通害虫

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) ハスモンヨトウ (2) シロイチモジヨトウ (3) オオタバコガ	多 い

<5月24日付け 発生速報第3号発表>

<6月6日付け 注意報第1号発表>

<7月26日付け 発生速報第5号発表>

<8月9日付け 発生速報第7号発表>

<9月12日付け 発生速報第9号発表>

1) 予報の根拠

ア. フェロモントラップにおける誘殺は、9月に入ってから継続して確認され、9月4半旬までの総誘殺数は、いずれの種でも多い。(+)

イ. 9月後半の巡回調査では、ネギ等においてハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウの卵塊や幼虫、被害が確認されている。また、りんどう、ダリアでは、オオタバコガによる被害が確認されている。(+)

ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウの卵塊や幼虫の集団が見られる葉、オオタバコガの被害部位（果実、花蕾、新芽等）や被害残さは取り除き、適切に処分する。

イ. 薬剤散布にあたっては、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫期に、薬液が株全体に十分付着するようていねいに行う。なお、各品目の収穫時期を考慮し農薬使用基準を厳守する。

ウ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なるグループの薬剤を輪用散布する。また、薬剤散布後でも被害の拡大が見られる場合は、異なるグループの薬剤を散布する。

エ. これまで被害が見られていない圃場や防除を行った圃場でも被害が急増することがあるので、圃場をよく見回り、早期防除に努める。

オ. ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ及びオオタバコガはいずれも広食性で、野菜、花き等、多くの作物を加害するため、周辺作物を含めてよく観察する。

カ. 今後も台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、発生動向に十分注意する。

[発生予察情報で使用される時期、量の表現の基準]

1. 時期

平年並	平年値（過去10か年の平均）を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
ややおそい	平年値より3～5日おそい
早い	平年値より6日以上早い
おそい	平年値より6日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去10年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →		← 平年並 →				← やや少ない →		←少ない→

東北地方 1か月予報（09/21～10/20）		
2024年09月19日14時30分 仙台管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 09/21～10/20	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 09/21～09/27	気温	1週目は、高い確率50%です。
2週目 09/28～10/04	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 10/05～10/18	気温	3～4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）			
気温	東北地方	向こう1か月 09/21～10/20	
		1週目 09/21～09/27	
		2週目 09/28～10/04	
		3～4週目 10/05～10/18	
降水量	東北地方	向こう1か月 09/21～10/20	
日照時間	東北地方	向こう1か月 09/21～10/20	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)